

令和4年度 事業計画書



日本赤十字社 長期ビジョン

目指す姿

国内外における人道支援活動の“要”となり、
わが国の地域医療・血液事業の中核を担う赤十字

長期戦略

事業戦略

災害や紛争時における支援の充実とレジリエンスの強化
超少子高齢社会における地域の健康・安全な生活の追求
多様化が進む社会における人道の輪の拡大

運動基盤強化戦略

会員の赤十字運動への参画促進
奉仕団等ボランティア主体の活動の拡充
国際赤十字との更なる協働

岡山県支部 令和4年度 重点項目

災害救護体制の整備

- 救護活動のための救急車の更新
- 災害時に活動するボランティアを対象とした研修体系の確立



防災・減災の知識・技術の普及促進

- 「赤十字防災セミナー」のボランティア指導者の育成
- 「赤十字防災セミナー」の地域コミュニティ及び企業・法人等への普及



地域包括ケアの推進

- ICTを活用した救急法等講習の推進
- 健康生活支援講習のボランティア指導員の育成



救護活動

救護活動は赤十字の最も重要な使命の一つです。災害発生直後の医療救護をはじめとする緊急対応はもちろんのこと、感染症対策を徹底し、避難所生活環境の整備やこころのケア、復旧・復興から防災・減災まで活動を強化していきます。

また、防災教育事業「赤十字防災セミナー」の指導者の育成を加速し、地域コミュニティにおける防災意識の向上を図り、災害による被害の軽減・抑止に貢献します。

● 救護班の編成等

災害時、直ちに被災地に出動し被災者の救護活動が行えるよう、常備救護班9個班（岡山赤十字病院8個班、岡山赤十字病院玉野分院1個班）54名を編成します。

また、適切な医療体制の構築を助言し、医療救護を統括・調整する日赤災害医療コーディネートチームの体制を強化します。

● 救護員の訓練・研修

近年多発・激甚化の傾向にある災害に迅速に対応するため、救護員に対する各種訓練・研修を実施します。訓練等では感染対策のためWebも活用し、救護技術・知識の向上に努めます。

また、被災者・救援者に対する心理社会的支援を行うための「災害時のこころのケア」についても研修を進めます。

● 被災者の支援

毛布・緊急セット等の救援物資を備蓄し、災害時には被災者に届けます。

● 義援金・救援金の受付

● 災害救護用資器材の整備

大規模災害時における医療救護活動のための救急車を更新します。

● 臨時救護の実施

不特定多数の人々が集う公共的なイベントや大規模なスポーツ大会等において、参加者等の安全を図るため、医師、看護師、主事等で編成された救護班やボランティアを派遣します。

● 防災教育事業「赤十字防災セミナー」の開催

災害からいのちを守るため、地域コミュニティにおける「自助」、「共助」の力を高めることを目的に、災害図上訓練（DIG）や応急手当等のカリキュラムの指導・運営を行う指導者を町内会・自治会等へ派遣します。

提供可能なプログラム例

災害図上訓練（DIG）	住民が居住地域の防災上の脆弱性や強みを地図上で確認し、地図を囲んでの意見交換を通じて防災意識を高める。
災害エスノグラフィー	過去の大規模災害の被災者の経験談を再編集した読み物を通じて災害を追体験し、被災の具体的なイメージを理解する。
応急手当	身近にあるものを用いた応急手当や一次救命処置を学ぶ。
災害への備え	災害からいのちを守り身の安全を確保するため、平時から準備すべきことを理解する。 避難所等で感染症から身を守るための基本的知識を学ぶ。



2

国際活動

赤十字は192の国や地域に広がる世界的ネットワークを活かし、人々の苦痛を軽減し、予防するためのさまざまな国際活動を行っています。

岡山県支部では、次の事業に対し支援を行います。

●インドネシア防災強化事業

災害への対応能力の高い地域、人づくりに取り組むために、教職員や防災ボランティアへの研修、地域住民に対する防災知識の普及等を財政面で支援します。

●アジア・大洋州給水・衛生災害対応キット整備事業

災害時における給水・衛生分野での救援ニーズを満たすため、安全な飲み水の確保や清潔な仮設トイレの設置など衛生環境の整備を財政面で支援します。

●「NHK 海外たすけあい」キャンペーンの実施



3

医療事業

日本赤十字社では、県内に岡山赤十字病院、岡山赤十字病院玉野分院、岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホームを設置運営し、各施設で特色ある医療事業を展開しています。

●岡山赤十字病院

岡山県より基幹災害拠点病院に指定されており、被災地への救護班、DMAT（災害派遣医療チーム）の派遣、傷病者の受け入れを行うため、さらなる訓練や研修の充実に努めます。

また、平時においては救命救急センターにおける救急医療、地域がん診療連携拠点病院としての手術・化学療法・放射線療法による治療と、緩和ケアでの苦痛を和らげる治療の体制を整えサポートしていきます。

これからも地域の皆さまにとっての中心的役割を担う母なる病院「マザー・ホスピタル」を目指し、地域の医療機関や介護施設等との連携をさらに深め、急性期病院としての病床機能維持及び地域医療の推進に積極的に取り組みます。



●岡山赤十字病院玉野分院

岡山赤十字病院や地域の医療機関と連携し、内科系の回復期や慢性期を中心に、在宅復帰を目指した医療を提供します。

また、専門外来は従来からの皮膚科に加え、岡山赤十字病院からの診療支援により循環器内科、糖尿病内科、肝臓内科、脳卒中科、並びに整形外科を開設していますが、今後も引き続き拡充を図り診療を行っていきます。

●岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホーム

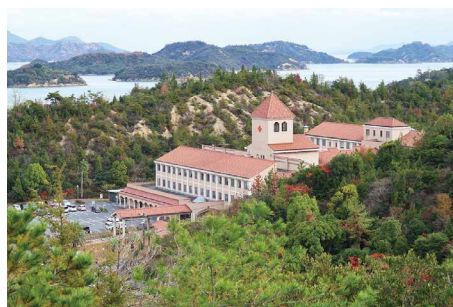
介護を要する高齢者等の心身の自立を支援し、より高い評価と満足度の包括的ケアサービスを提供する役割を担い、在宅復帰を目指します。

また、ショートステイや通所リハビリテーションを提供します。

居宅介護支援事業所では、利用者に合った最適な介護保険サービスをマネジメントします。

●「赤十字健康講座」等の開催

県内の赤十字施設が連携し、医師や看護師等が講師となり「赤十字健康講座」を開催するとともに、地域からの要望に応じて医師等を派遣する「健康講演」により、県民の皆さまの健康増進を図ります。



4

看護師養成事業

●岡山赤十字看護専門学校

人道を基調とし、豊かな人間性を育み、保健・医療・福祉の分野をはじめ、災害救護の現場で活躍できる基礎的能力をもった看護実践者を育成することを理念とし、個性を尊重した看護基礎教育を行っています。

令和4年度入学生から新カリキュラムによる教育がスタートします。人間を身体的・精神的・社会的存在として幅広く理解する能力、人間関係を形成するコミュニケーション能力、科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を身につけることができるように支援していきます。



5

血液事業

岡山県赤十字血液センターでは、新型コロナウイルスをはじめとした感染症等に対し、徹底した感染防止対策を行い、県民の皆さまに安心して献血いただけるよう環境づくりに取り組むとともに、輸血用血液製剤を24時間体制で医療機関にお届けしています。

●献血者の確保対策

輸血用血液を安定的に確保できるよう、令和4年度は81,380人の献血を目標とし、献血ルーム「うらら」や「ももたろう」でさまざまなキャンペーンを実施します。また、Webでの「高校出前講座」による献血の啓発や、ポイントを記念品と交換することができる献血 Web 会員サービス「ラブラッド」への登録推進、献血会場での密の回避やスムーズなご案内が行える献血の事前予約に力を入れ、献血者の安定確保に努めます。



●医療情報活動の充実

岡山県内の医療機関と輸血用血液製剤に関する供給懇談会等を開催して情報共有や連携を図ります。また、輸血に携わる医師、臨床検査技師、看護師などを対象とした輸血用血液製剤の取扱い方法等の輸血療法に関する勉強会を開催し、医療機関における適正で安全な輸血療法に貢献します。

輸血用血液製剤の供給に関しては、予約や定時配送などの重要性を理解いただくとともに、オンラインシステムを活用した血液製剤発注システムの導入及び利用促進を図り、効率的な供給体制を構築するよう努めます。

●骨髄ドナー登録の推進

献血会場におけるポスターの掲示など、骨髄バンクの周知に努め、県、市町村、日本骨髄バンク、ライオンズクラブ及びボランティアなど関係団体等と協力体制を構築し、骨髄ドナーの登録を推進します。



●地域に開かれた血液センターの展開

地域に根差した血液センターとしての役割を果たすため、災害時には地域の方の一時避難場所に利用していただくなど、地域福祉に貢献します。

6

救急法等の講習

地域の健康と安全を守ることを目的に、日常生活に役立つ知識や技術を広く一般に普及できるよう講習を開催するとともに、地域や各種団体等からの依頼により指導員を派遣し、“地域ぐるみで支え合える”体制づくりに貢献します。

また、令和3年度に引き続きオンライン講習等も活用しながら、継続してより多くの方が「学べる」機会を提供します。

●指導員の研修・育成

スキルアップするための指導員研修の実施と、指導員育成による体制強化により、講習環境の整備に努めます。

●地域包括ケアの推進

地域の方々が住み慣れた場所で自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう、健やかな高齢期を過ごすための健康維持・増進などを目的とした健康生活支援講習等を活用し、管内施設をはじめ、赤十字奉仕団や行政など、赤十字内外との連携強化に努めます。



7

赤十字ボランティア

赤十字の活動は、多くのボランティアによって支えられています。

研修などを通じて、その活動の担い手である赤十字ボランティアの育成・強化に努め、より一層の活動の推進を図ります。

●防災ボランティアの体制整備

災害時に被災者に寄り添い活動する防災ボランティアの重要性は、自然災害が頻発するなか、ますます高まっています。

長期にわたり、社会の幅広いニーズに対応できるよう、社会福祉協議会が設置する「災害ボランティアセンター」の運営支援や「災害支援ネットワークおかやま」との連携等を通じて他団体とも協働し、多様なボランティア活動が展開できるよう体制の整備に努めます。

●赤十字奉仕団の育成・活動推進

各地域の活動ニーズに沿った人道的活動や、それぞれの奉仕団が持つ専門的知識・技術を活かした活動が展開できるよう、感染症予防のもと、奉仕団ごとの実情に応じた研修を実施するとともに、奉仕団の主体的なボランティア活動を支援します。



8

青少年赤十字 (JRC)

青少年赤十字 (JRC) は、令和4年に創設100周年を迎えます。新型コロナウイルス感染症の拡大により集合形式による記念行事の開催が困難であるため、SNSによる各校 (園) の活動投稿などに取り組みます。あわせて、リモート形式等で児童・生徒が赤十字について学んだり体験する場を提供するとともに、校内で活動できる防災教育教材等の提供を継続します。

また、引き続き教育委員会との連携を深め、青少年赤十字 (JRC) に対する指導者の理解を一層深めていただくとともに加盟校の増強に努めます。



9

広報活動

より多くの方々に赤十字の事業内容や活動資金の用途についてご理解いただくことは、善意の寄付により活動を行う日本赤十字社にとって大切なことです。

お一人でも多くの方に私たちの活動に賛同いただくためにも、また、ご寄付いただいた方への説明責任を果たすためにも、積極的な広報活動に努めます。

そのために、メディア露出の機会を増やすとともに、SNSを活用し、より幅広い世代に向けた広報活動を展開します。

- 広報紙「赤十字おかやま」による会員への情報提供
- テレビCM・ラジオCMの放送による活動資金への協力呼びかけ
- 赤十字運動月間 (5月) における新聞広告の掲出
- 効果的なプレスリリースによる露出機会の創出
- SNS (フェイスブック・インスタグラム・ユーチューブ) を活用した活動の周知
- 大型イベントや地域イベントにおける赤十字ブースの出展



10

会員の加入促進と活動資金の募集

新型コロナウイルス感染症の拡大により各戸訪問による活動資金募集が困難となったこと、ご支援いただいていた企業の業績悪化等により、活動資金収入は大幅な減少となり、赤十字の活動にも大きな影響を受けました。

赤十字の人道的活動を継続的に実施するには、より多くの方に赤十字の活動をご理解いただく必要があります。

会員や協力会員、寄付者としてご支援いただける方々の増強を目指し、赤十字活動に触れていただく機会を増やすとともに、寄付機会の拡充に努めます。

令和4年度の活動資金目標額は、以下のとおりです。

(単位：千円)

令和4年度活動資金目標額		250,000
内訳	個人	215,000
	法人	35,000

●地域における活動資金募集の強化

各戸訪問等によりご協力いただいている地区・分区を通じた活動資金の減少が顕著であり、より赤十字活動をご理解いただくためにも、地区・分区の担当者とのさらなる連携に努め、地域におけるイベント等での広報活動や活動資金の募集機会の拡充に努めます。

●新たな寄付形態の検討

活動資金の新規獲得や寄付者の利便性の向上を目的に、これまでの寄付方法にとられず、新たな寄付形態について検討を進めます。

●法人への協力依頼

活動資金の協力依頼にとどまらず、法人（企業・団体）とのタイアップによる事業展開を推進します。

●遺贈・相続財産による寄付の推進

「赤十字終活セミナー」を開催するとともに、遺贈・相続財産寄付の受け入れ体制の構築、専門家とのネットワークづくりに努めます。

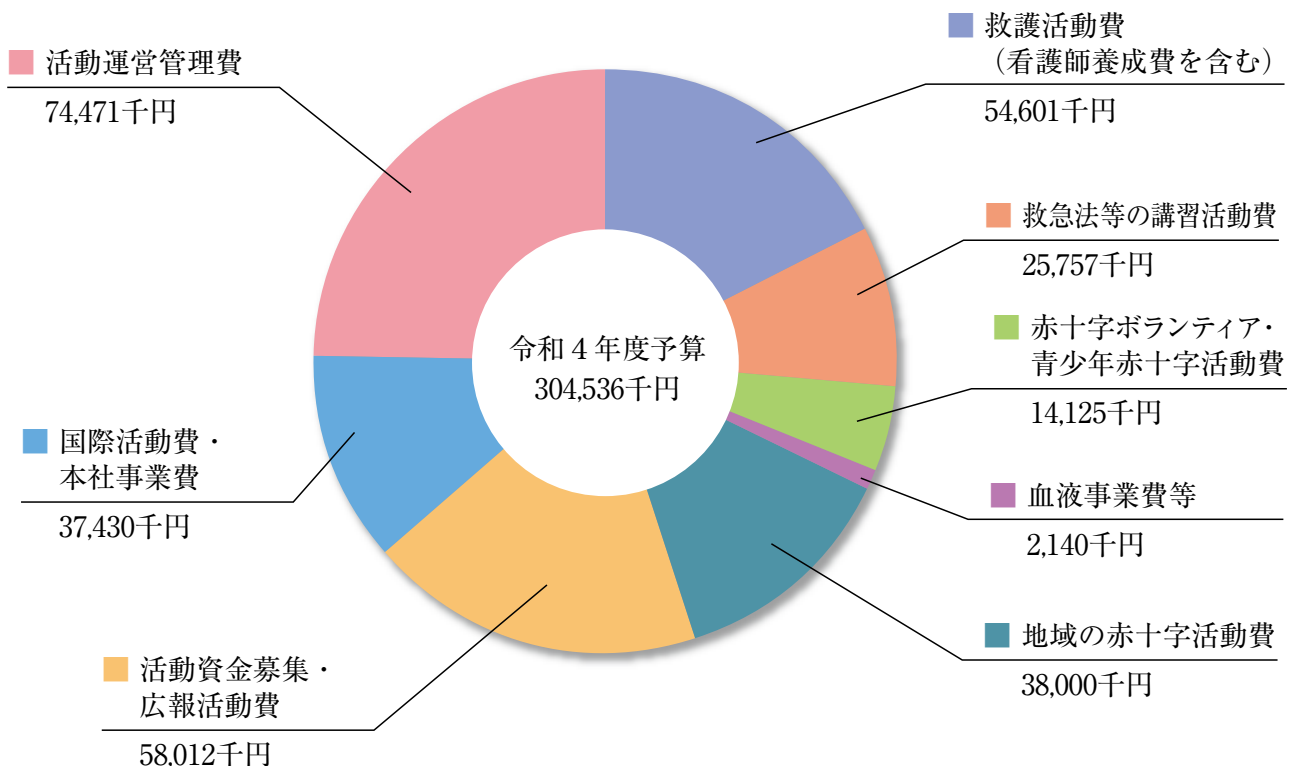
●企業・団体との連携によるSDGsの推進

企業と赤十字のそれぞれの機能や能力、強みを活かしながら連携の強化を図り、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に努めます。



(単位：千円)

科 目	予算額
活動資金収入	250,000
本社交付金収入	2,714
資金繰入金収入	9,361
各種講習教本代等雑収入	3,700
前年度繰越金	38,761
歳 入 計	304,536
救護活動費（看護師養成費を含む）	54,601
救急法等の講習活動費	25,757
赤十字ボランティア・青少年赤十字活動費	14,125
血液事業費等	2,140
地域の赤十字活動費	38,000
活動資金募集・広報活動費	58,012
国際活動費・本社事業費	37,430
活動運営管理費	74,471
歳 出 計	304,536





 **Facebook**



 **Instagram**



 **YouTube**



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

岡山県支部